

令和8年度 川崎市立小学校体育研究会 研究基本構想

川崎市立小学校体育研究会 研究部

1. 研究の基本的な考え方について

本年度の研究テーマ

「体と心を育てる体育学習 めあて学習の充実によって、運動の楽しさを味わえる体育学習をめざして」
～「AARサイクル」での学習を通して、誰もが運動の楽しさを味わえる授業づくり～

令和2年度から全面実施となった学習指導要領では、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、『知識及び技能』、『思考力、判断力、表現力等』、『学びに向かう力、人間性等』を育成することが目標として示されている。

そこで川崎市立小学校体育研究会では、学習指導要領の内容と本研究会で長年大事にしてきたためあて学習を踏まえ、「体と心を育てる体育学習 めあて学習の充実によって、運動の楽しさを味わえる体育学習をめざして」を研究テーマとしている。さらに今年度も、昨年度に引き続き、体育・保健の「見方・考え方」を重視していくため、副題を「AARサイクルでの学習を通して、誰もが運動の楽しさを味わえる授業づくり～」と設定した。AARサイクルとは、ある程度の見通しが立ったらすぐに活動して、活動の中で修正し、少しずつ課題を解決していくという手法である。OECDの「Learning Compass 2030(ラーニング・コンパス 2030、教育の羅針盤)」では、未来に対応する学習サイクルとして【Anticipation(予測)-Action(実行)-Reflection(振り返り)(AAR) Cycle】を強く推奨している。OECDによれば、AARの学習サイクルを繰り返す学習によって、変化の激しい社会でも効果的に学ぶことができると指摘している。AARサイクルであるAnticipation(見通し・予測)からAction(行動)へと移し、試行錯誤の中からReflection(振り返り)を行い、自己のめあてを修正したり、確かめたりする中で、主体的にめあて達成に向けて取り組む姿を追っていきたいと考える。AARサイクルの中でめあて達成に向けてどのような関わり方や課題解決が有効だったのかを分析していく。

学習指導要領には、『体育の「見方・考え方」とは、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること』であると考えられる。』と示されている。『保健の「見方・考え方」とは、疫病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疫病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること』であると考えられる』と示されている。授業実践に当たってはこの副題を強く意識して、すべての子供が自分に合っためあてをもち、「する・みる・支える・知る」といった多様な関わりの中で、自らの課題を仲間と共に解決していく活動を通して、運動の楽しさを味わうことができる体育学習の指導のあり方を探っていく。

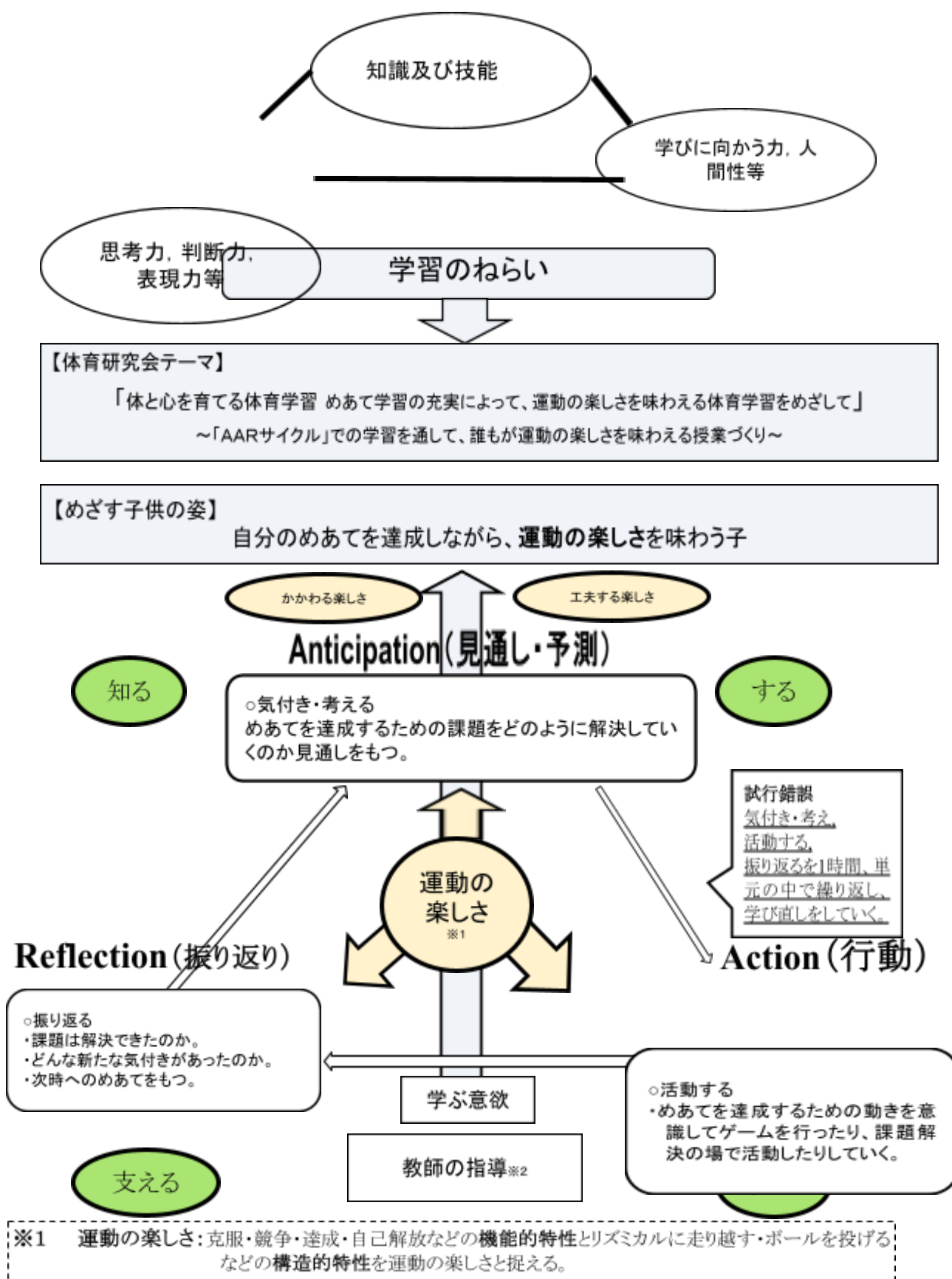
○研究構想図

【めざすもの】

生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現

【運動の楽しさ】 ※1

○克服・競争・達成・自己解放などの楽しさ(機能的特性)



※2 教師の指導

指導内容を明らかにすること(どんな楽しさを求めるのか、どんな資質・能力を育むのかを考える。)

指導方法のプランをデザインする(学習の道すじや・めあて達成の仕方を考える。)

子供との関わり(場や教具の提示や教師の関わり)(言葉かけ・補助・子供同士をつなぐ)

2.重点研究課題

【今年度の重点研究課題】

子供たちが運動の楽しさを味わうために、めあて達成に向けた学びの過程や課題解決につながる有効な関わり方を検証する。

今年度は重点研究課題を「子供たちが運動の楽しさを味わうことができるように、めあて達成に向けた学びの過程や課題解決につながる有効な関わり方を検証する」とする。重点内容の大きな変更はないが、AARのサイクルの中でめあて達成に向けて子供がどのように学んでいくのかまた、学びの過程や課題解決に向けて、教師や子供たち同士の有効な関わり方について分析、検証していく。AARサイクルとは、ある程度の見通しが立ったらすぐに行動に移し、適宜、活動の中で修正し、少しずつ課題を解決していくという手法である。めあてをより自分事として捉えるAARは試行錯誤しながら取り組むめあて学習により適していると考ええる。よって、めあて達成に向けた活動がどうだったのかを子供自身が振り返り、次にどのようにしていったらいいかを考える時間が大切になってくると考える。

AARのサイクルでの子供の学びの中で、指導者は身に付ける資質・能力や困り感を把握し、一人一人のめあて達成に向けての有効な関わり方について、単元の(授業の)どのような場面でどのような関わりを行っていくのか、またその指導(場も含めた)が課題解決に有効に機能する手立てだったのかを分析していく。

3. 重点研究課題にせまるための視点

【課題解決に向けた関わり】

①言葉かけ

- ・主体的に子供が気づき・考えることができる全体への投げかけや身に付ける動きを意識できるように有効な言葉かけを探る。

(オープンクエスチョンを意識して)

②場や規則・ルール

- ・一人一人の課題解決に適した場やルールを探る。

③個に応じた関わり

- ・運動の苦手な子や困り感をかかえた子に対する関わり方や、学習をリードできる子への関わり方など、個に応じてどのように関わっていくのか明らかにする。

4. めあて学習について

①めあて学習の定義について

○めあて

体育学習における、克服・達成すべき動きや記録・ルール(規則)の工夫・進んで行う態度 などの運

動の楽しさ・楽しみ方の方向性、学習指導要領に示されている3つの資質・能力を具 体化したものが「学習のねらい」である。そして、「学習のねらい」を学級全体としての目標 とし、それを達成するために、個人がそれぞれの力に応じて、自らの意志で設定したより具体 化した目標を「めあて」として考える。

○めあて学習

教師の指導や友達との関わりなどにより、子供たち一人一人が、自らの意志で設定した「め あて」をもち、そのめあてを達成するために課題を見付け、その課題を解決して、自らのめあ てを達成する学習だと考える。また、主体的・対話的で深い学びを意識して取り組むことが、 めあて学習の充実につながり、運動の楽しさを味わうことになると考える。

※教師の指導：言葉かけ、場・教具の提示、見守りなど、学習のねらいにせまるために行う、全ての手立て

○めあて学習構想図

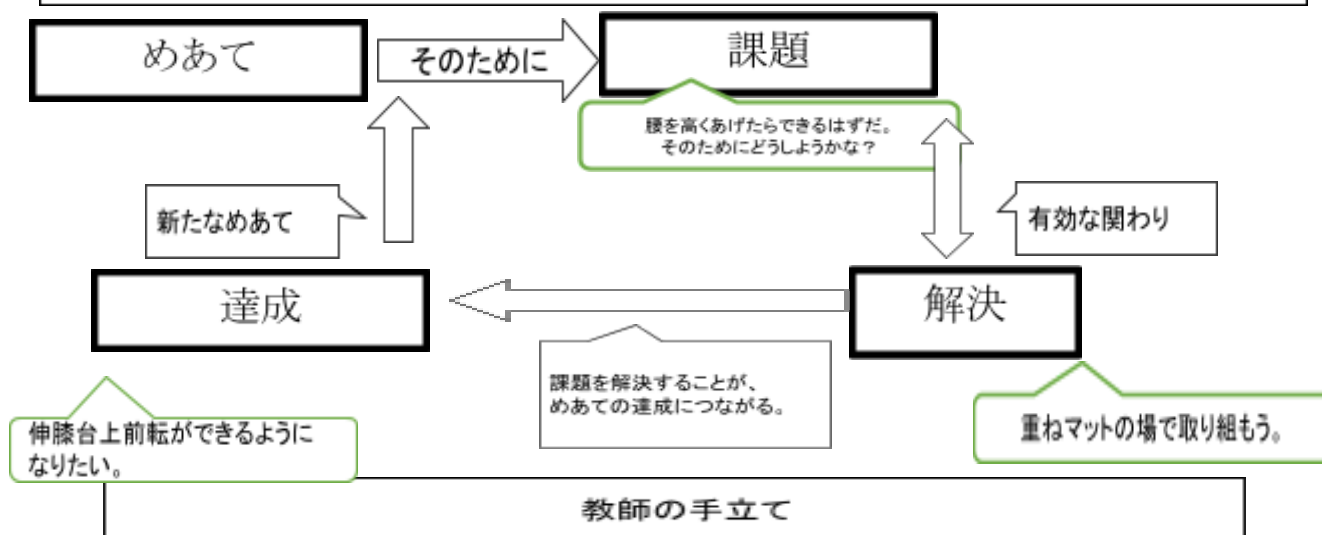
高学年 跳び箱運動 単元後半の例

学習のねらい

〈知識及び技能〉跳び箱運動での楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすることができるようにする。
 〈思考力、判断力、表現力等〉自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
 〈学びに向かう力、人間性等〉跳び箱運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

本時のねらい

自分の力に合った技や学習の場を選び、切り返し系や回転系の基本的な技を安定してできたり、その発展技ができたりする。



②めあて学習の解釈について

「学習(各時間)のねらい」「学習(各時間)の目標」に向けてその時間に、自分の力に合わせて考えた、

「今日は～をがんばりたい。そのために～に気をつけて、～の場で、運動するぞ！」

という「めあて」、そして、そのめあてを達成するために設定した「課題」とその「解決方法」を含め、「めあて」と考える。教師は、めあてと課題とを分けて考えるが、学習中に子供に提示する場合は、めあてと課

題を合わせてめあてとして捉える。(学年によっては、めあてのみの場合もある。)学習、学年が進むにつれて、より具体化すると考える。学習指導要領にある課題や解決という言葉を含めて、めあて学習と捉える。

③めあて学習の必要性について

各時間のねらいに向けて、個々が「めあて」をもって自ら、また、友達と一緒に取り組み、解決に向けて試行錯誤を重ねながらよりよく取り組む学習を「めあて学習」と捉える。自ら進んで取り組んだり、友達と共に取り組んだりしながら、より良く3つの資質・能力を育むことやより良く運動の楽しさを味わうためにはめあて学習が有効だと考える。めあて学習の充実は、自ずと子供が主体的に学ぶこと、友達と共に対話的に学ぶこと、試行錯誤しながら深く学ぶことにつながる。また、主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを行うことは、めあて学習の充実につながる。そのため、学習指導要領に示された授業改善の視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現のためにも、めあて学習が大切だと考える。

○主体的・対話的で深い学びについて

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進については、指導方法を工夫して必要な知識及び技能の習得を図りながら、子供たちの思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を追求し、必要な学習環境を積極的に設定していくことが大切である。

(小学校学習指導要領解説 体育編より)

	場面の例	内容
主体的な学び	学習全体	運動の楽しさや健康の意義に気付き、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、それを考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりするなどの主体的な学びを促すこと。
対話的な学び	めあてや課題の設定 課題の解決	運動や健康についての課題の解決に向けて、児童が他者(書物等を含む)との対話を通して、自己の思考を広げたり深めたりし、課題の解決を目指して、協働的な学習に取り組むなどの対話的な学びを促すこと。
深い学び	課題の解決	それらの学びの過程を通して、自己の運動や健康についての課題を見付け、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決するための深い学びを促すこと。 ・めあてを達成するために課題に取り組む姿。 ・課題解決学習中で新たな課題を見付ける姿。

④めあてをもつことができるために

(1)言葉かけで

- ・思わずできたとき、なかなかうまくできないときには、教師が動きのポイントを教える。

「起き上がるタイミングがよかったね」「着地で前を見ると体が起きるよ」

(2) 発問で

・言葉かけを、疑問形にする。「なんで得点が決まったのだろう？」

(3) 選択肢を与えて

・いくつか例示し、選ぶことができるようにする。

「Aの場合は～ができるね。Bの場合は～ができるね。どちらが使いそうかな？」

(4) 友達の運動を見て

・良い動きを例示し、ポイントに気付くことができるようにする。

「～さんと、先生の前転の違いは？」

(5) ICT機器を活用して

・動きを動画で確認したり、良い動きの動画と比べたりし、自己の課題に気付くことができるようにする。

(6) 学習カードで

・本時の振り返りから、次時のめあてをもてるようにする。めあてが合っていない場合は、軌道修正する。「今日は～に気を付けて～ができるようになった。次は、～の場で、～に挑戦しよう」

5. 小中学校のスムーズな接続

学習指導要領に基づいた小中のつながりと系統を意識した学習計画を立て、それぞれの学年に応じた学習のねらいを示していく。そして、子供たちが確かな体力と技能を身に付けることができるカリキュラムづくりを進めていく。また、同地区の中学校の研究授業を参観したり、小・中学校体育・保健体育研究発表会に参加したりして、指導内容の理解、教師間の交流を図る。

6. 研究の進め方

○令和8年度 地区の研究領域

川崎・幸・中原合同支部	高津・宮前合同支部	多摩・麻生合同支部
フラッグフットボール	投の運動	多様な動きをつくる運動

※研究構想をもとにした授業実践を行い、研究重点課題に迫るための視点に沿った子供の姿を通して協議する。協議で出た意見をもとに各地区で研究を深め、次回の授業実践に生かす。協議の司会は書記局・研究部が担当する。

○授業日について

(7月8日保健領域のみ可)・10月21日・11月4日・11月18日・1月20日を授業研究日(候補日)とし、常任委員授業と会員授業で構成する。

会員授業○ 常任委員授業☆

	7月8日	10月21日 常任委員	11月4日	11月18日 会員	1月20日
--	------	----------------	-------	--------------	-------

			常任委員		会員
川崎	○宮前小 保健3年 保健5年				
幸				御幸小	
中原	白田			○大戸小	
高津					
宮前			○会員校？		
多摩	院田		☆稲田		南生田 (会員校)
麻生					○王禪寺小 5年

課題解決の方法